メディアの自殺報道と自殺の関係
システマティック・レビューとメタアナリシス

Thomas Niederkrotenthaler, Marlies Braun, Jane Pirkis, et al.

Association between suicide reporting in the media and suicide: systematic review and meta-analysis.

BMJ. 2020 18; 368:m575

PMID: 32188637

ヒトコトで言えば

著名人の自殺が報道されると、その後の自殺者数が増加する傾向にある。特に同一方法での自殺者数が増える傾向にある。

Introduction

✓**メディアによる自殺報道が自殺者数と関係している**ことが過去の研究より知られている。

✓メディアの自殺報道に影響され、自殺が増える現象はウェルテル効果と呼ばれる。特に、**自殺の方法自体を模倣する**という点に特徴がある。

✓メディアガイドラインでは、センセーショナルな自殺報道を防ぐのみならず、自殺対策や支援先へのアクセス方法を伝えることで、ウェルテル効果を抑止している。

過去のメタアナリシスは…

- 明確な研究の除外基準なし
- 自殺報道の中身が曖昧
- アウトカムは自殺者数の増加 or 減少の二項対立変数

Introduction

✓本研究の目的は、ウェルテル効果に関する文献から得られた知見を検証し、定量化することにあり、以下の３つを明らかにすることを目的とした。

① 著名人の自殺報道が、その後の短期間(最大2ヵ月)の自殺者総数に及ぼす影響

② 著名人の自殺方法の報道が、その後の同一方法の自殺者数に与える影響

③ 一般人の自殺報道が、その後の自殺者総数に及ぼす影響

Methods

Search Strategy

メディア: テレビ、紙媒体、オンラインニュース
検索語: suicide AND imitation AND media

Study Selection

前後比較研究 or 中断時系列デザイン
介入因子：自殺関連のメディア報道
変数：自殺による死亡

Exclusion

オリジナルデータの無い研究
母集団のサブグループで関連性を検討した研究
介入前の自殺方法の発生率が 5%未満のもの
新しい自殺方法を報告した研究
第二次世界大戦前のデータ
介入因子が自殺に関係のないメディア報道
適格ではないデザインを適用した研究
バイアスのリスクが高い研究
他の研究とデータが重複している研究

Data Extraction

研究場所(国)
研究期間
介入後の観察期間
アウトカムがどのように測定されたか
介入がどのように測定されたか
報道されたのは著名人の自殺/一般人の自殺
介入回数
(著名人の場合)職種
(著名人の場合)世界的に有名/地元で有名
アウトカムに用いる自殺方法
　あらゆる自殺方法/特定の自殺方法
メディアの種類
報道された自殺方法に関連するアウトカム
バイアスリスク

Methods

Quantitative data synthesis

- ✓一次解析：著名人の自殺報道がその後の自殺者総数に与える影響
- ✓二次解析A：著名人の自殺方法の報道が、その後の同一方法の自殺者数に与える影響
- ✓二次解析B：一般人の自殺報道が、その後の自殺者総数に及ぼす影響

Results

Study

31研究

Quality assessment

20研究 中等度リスク
11研究 重篤なリスク

一次解析：
著名人の自殺報道はその後 2ヵ月の
自殺者総数を有意に増加させる. (RR 1.13)

二次解析A：
著名人の自殺方法の報道はその後 2ヵ月の
同一方法での自殺者数を有意に増加させる. (RR 1.18)

二次解析B：
一般腎の自殺報道と、その後 2ヵ月の
自殺者総数に有意な関連はみられなかった。 (RR 1.002)

Legends

Figure 1. 文献選定のフローチャート

Figure 2. 一次解析のフォレストプロット
著名人の自殺報道後、追跡期間における一般人の自殺者数は有意に増加していた (RR 1.13)

Figure 3. 二次分解析Aのフォレストプロット
著名人の自殺報道後、追跡期間において一般人が同じ自殺方法で自殺した数は有意に増加していた (RR 1.30)

Figure 4. 二次分解析Bのフォレストプロット
一般人の自殺に関する報道後、追跡期間において一般人の自殺者数は有意に変化しなかった。(RR 1.002)

Figure 5. 出版バイアスの検討(ファンネルプロット)
一次分析は出版バイアスあり
二次分析A, Bは出版バイアスなし

Table 1. 2. 各研究の特徴

Discussion

- ①著名人の自殺報道により、その後の自殺者総数は増加した。
- ②著名人の自殺方法の報道により、同一方法の自殺者数は増加した。
- ①に比べ、②の効果が大きかった。

Strengths

- 本研究はメディアによる自殺報道がその後の自殺に及ぼす影響に関して述べられた最も包括的なものである。
- 解析に用いた研究のバイアスリスクは低～中程度だった。

Limitations

- 自殺のメディア報道がその後の自殺者総数に及ぼす影響に関して5件の研究しか用いることができなかった。
- 新しい自殺方法や架空の自殺方法に関する研究は、対象にしていない。
- 自殺に関するメディア報道は、助けを求める行動などにも影響を与えた可能性がある

Conclusion

- ✓メディアによる著名人の自殺報道は、その後の自殺者数を増加させる影響が明らかになった。
- ✓自殺予防の専門科家とメディアの専門家との協力は、自殺予防戦略に不可欠である。
- ✓特著名人の自殺報道には注意が必要である。
- ✓メディアはニュース性の高い自殺を報道するが、ウェルテル効果が作用する可能性を最小限にする社会的責任がある。

抄読会での感想

- ✓数年前から有名人の自殺報道の後で、一般人の自殺者数が一時的に増えている印象は、臨床の中で感じていた。
- ✓この影響がウェルテル効果として知られていることが学べた。
- ✓今回はメディア報道の影響に関する研究だったが、我々医療従事者が発信する情報にも自殺に対して与える影響があるかもしれないので、情報は慎重に扱いたい。